

例 会 報 告
第307回 「虚空蔵山に登ろう」
嬉野市 (2021.10.24)

大チャノキがある嬉野市不動山地区。ススキの穂が秋を感じさせ、澄み切った空気に包まれた中、今日の参加者を乗せた自家用車が次々に到着した。今回登る山は標高608mと比較的低い山だが、山頂には虚空蔵菩薩が祀られており、長崎県の島々を含めた大パノラマが楽しめる登山者には人気の山だ。しかし山頂に辿り着くまでには、転石が疲れた足に堪える足場の悪い谷道、尾根に出ると鎖場を含めた急峻な坂が立ちはだかる修験者が好みそうな健脚向きの山でもある。

9時20分登山開始。まずは車を停めた場所から登山道入口までは、嬉野ならではの茶畑が広がる里山を体を慣らしながら進む。登山道入口からは急な山道が続く。途中、植物の説明を受けながら休み休み歩を進め、最初の休憩ポイント「地蔵堂」を目指す。まだ歩きやすい。参加者も互いに打ち解け、会話も弾む。9時55分、予定より早く地蔵堂に到着。皆、表情も明るく疲れを感じさせない。しかし、ここからがごろごろと石が転がり、風水害で倒れたスギの木をくぐったり段差のある箇所を登ったりと、歩きにくいコースが続く。次第に息が荒れてきた頃に洞窟ポイントに到着。小休止後、すぐ先の尾根に出る。ここからは2択のコースが選べる。1つはそのまま尾根を山頂へと進む家族向けコース、もう1つは、そのまま長崎県側に下り、ぐるりと周回して山頂をめざす冒険コースだ。結局、全員が冒険コースを選んだが、果たして後々何名が後悔する事になるか？

冒険コースを進むと途中で水源が出迎えてくれたり、アカガシ林の中を野鳥のさえずりを聞きながら豊かな自然を満喫することができる。しかし、実際には何人が鳥のさえずりを聴くゆとりがあっただろうか。連続する切り立った崖を鎖を頼りに登る。途中開けた場所では子供たちが「景色のきれいかーっ！」と遠く広がる景色を眺めて歓声をあげるが、ぜえぜえと息し、ぷるぷると震える我が足に景色を楽しむゆとりはない。

11時25分山頂着。冷たく吹きつける風が満身創痍の体をいたぶったが、苦勞して登った者しか眺めることのできない絶景と山頂で味わうおにぎりが体力と気力を回復させてくれた。実は、今回、90歳と88歳の大ベテランのお二人も虚空蔵山にチャレンジ！途中、家族向けコースを進まれたものの無事登り切られた。果たして私もその歳でこの山に登ろうと思えるか、そして登り切れるか。健康の大切さを考えさせられる1日でもあった。

13時10分ベテラン組以外の参加者が、そして14時にはベテラン組も無事下山。体力的には結構ハードな登山だったはずなのに、口々に「今日は楽しかった！」と感謝の気持ちでいただくと、“精神的な”疲れは吹っ飛んでいった。ご参加ありがとうございました。（文責：井上 参加者18名）



いざ出発！！



スギとヒノキの違いは...



休憩中



井上先生より植物（マメツタ）の説明



源流があったよ



これから岩をよじ登って山頂をめざす



山頂にて 昼食タイム

